

世界鉄鋼協会のLCA方法論

16年度下期ISO化へ

鉄鋼材料 環境評価 早期の確立図る

日本鉄鋼連盟は、高炉法と電炉法で区別せずに鉄鋼製品全体で評価する世界鉄鋼協会のLCA（ライフ・サイクル・アセスメント、環境影響評価）方法論

2016年度下期にも規格が成立する見通しだ。ISO化によって、自動車などの製品廃棄後にリサイクルされるスクラップの環境価値をLCA評価に取り入れることができ、リサイクル率が高く、環境

正当に評価されるとも、スクラップリサイクル率の高い日本鉄鋼業や、日本鉄鋼製品を利用する需要家の環境評価も有利になる。

LCAは製品やサービスに対する環境影響評価の手法で、評価主体・企業ごとに採用している方式や境界条件が異なる。世界鉄鋼協会では、「鉄鋼製品が寿命後も鉄源として100%再利用される」という鉄鋼資源循環に着眼。高炉法・電炉法を一つの鋼材循環システムとして評価し、両製

鉄法を区別せずに鉄鋼製品全体で計算・評価するLCA方法論を確立。同方法論に基づく鉄鋼製品ごとの環境負荷データを5年ごとに世界規模で収集し、公表している。

日本鉄鋼連盟は14年度から準備を進め、同方法論のISO規格化を目指すことを世界鉄鋼協会LCA専門家会議に提案した。すでにISO素案は事業受託先である日鉄住金総研で作成され、世界鉄鋼協会の事務局を通じてLCA専門家会議メンバーに送付された。

LCA専門家会議メンバーの合意が得られれば、15年度の早い段階で国際標準化機構（ISO）に対して、規格提案）を実施し、実質的にキックオフ。NP提案が認められれば、鉄鋼材料の規格を制定しているISO「TC17（鋼に関する専門委員会）」でワーキンググループが立ち上がり、早ければ16年秋にもISO化が実現する。

同方法論はLCAの基準を定めるISO（14040、14044）に準拠している。他素材に先駆けてLCA方法論をISO化する

ことで、鉄鋼材料の環境評価を早期に確立していきたい考え。（10面に関連記事）

を通じて、環境づくりに貢献
豊富な環境
製品豊かな
製材豊富な
スチール製
なるとれた
確かな調和

古賀オール

本社/〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-2
TEL.03(3666)1331(代表) URL:http://www.koga-all.co.jp

NP (New・World Item・Proposal) 提案(新